

# 平成 29 年度 海田町立海田西小学校学校評価 (最終評価)

## 教務部 活用力の向上

○学力調査における活用問題で30%未満の児童を学級で20%未満になることをめざす。

具体的な方策 (1 2 3)	成果 (○) と来年度に向けた課題 (▲)
<p>1 学力テストの結果を分析し、活用力の向上に生かす。</p> <p>2 児童の実態に応じた指導                      ○朝学習…基礎的な問題に取り組む。                      ○座学…活用力を問う問題に取り組む。                          ・習熟度別に分かれて行う。                          ・管理職、専科が入り指導する。                      ○給食準備中に個別指導を行う。                          ・週3日(月・火・金曜日)                          ・学年を決めて                      ○放課後に個別指導を行う。</p> <p>3 新聞を活用した表現力の向上                      ○新聞への全員投稿(字数制限あり)に定期的に取り組む。                          ・月に1回</p>	<p>1                      ○1学期実施の学力調査においては、学年別に実施した全教科の「活用問題で30%未満の児童が学級で20%以上」であった項目が2項目あったが、3学期実施の学力調査(CRT)においては、0項目に減少した。                      ▲3学期実施の学力調査(CRT)の結果を教科ごとに分析すると、「活用問題で30%未満の児童が学級で20%以上」であった項目が1学期の41.6%から、3学期は31.3%に減少した。しかし依然として課題として残っている。</p> <p>2                      ○時期に応じて予定通り取り組んでいる。                      ○座学や給食準備中に個に応じた指導を続けたこととともに、活用力の向上と授業力向上への取組がリンクするものであると捉えて取り組んできたことで、活用力の向上に向けた校内での一貫した授業スタイルができつつある。</p> <p>3                      ○4月から2月まで、毎月ちゅーピー子ども新聞の発展問題に投稿した。</p>

**自己評価**

**3点/4点満点**

## 教務部 授業力向上と授業改善

- 基礎・基本定着状況調査の質問紙の項目において、県平均より3ポイント以上上回る。
- 解決しようとする課題について予想する(させる)授業ができた。
- 自分の考えとその理由を明らかにして発表する(させる)授業ができた。

具体的な方策 (1 2 3)	成果 (○) と来年度に向けた課題 (▲)
<p>1 「西小学びのスタイル」の指標に沿った授業力向上                      ○対話と協働を重視した授業づくり                      ○5月に、全学年共通の指標を作成し掲示し、児童と教員の共通認識をもつ。</p> <p>2 話型の活用                      ○低・中・高で身に付けるべき話型を掲示し、取り組む。                      ○「課題について予想して見通しある授業」「理由づけで発表」をもちこむ。</p>	<p>○話し合いの進め方やふり返りのモデルを教務部で作成し、実践できるようにした。</p> <p>○授業改善に役立てるため、授業ふり返りチェックシートを作成した。研究授業で、授業を参観する際の視点としても活用した。</p> <p>○以前よりも見通しのある授業や理由付けで発表はできるようになった。</p> <p>▲ふり返りが毎時間でできず、「西っ子ふり返りスタイル」を十分に活用することができなかった。</p>

**自己評価**

**3点/4点満点**

## 生徒指導部 相手を大切にした返事・あいさつ・言葉づかい

- 「はい」と「あいさつ」・「ことば」を相手のことを考えて使うことができる。
- 縦割り活動で自己肯定感を高める。

具体的な方策（1 2 3）	成果（○）と来年度に向けた課題（▲）
1 毎学期、2週間かけてあいさつ名人カードに取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 期間を決めて教員が見取り、指導する。</li> <li>○ あいさつ名人達成率 見取り90%をめざす。</li> </ul>	○88%を達成することができた。 ○あいさつの小道などの取り組みを行うことによって、あいさつが定着しつつある。 ▲繰り返しあいさつに関する取り組みを続ける必要がある。
2 朝の健康観察で、名前を呼ばれたときに、相手にはっきりと聞こえるように返事をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教員が見取り、指導する。</li> <li>○ 全児童の80%以上をめざす。</li> </ul>	○82%を達成することができた。 ○名前を呼ばれたら大きな声で返事をできた。 ▲引き続き、取り組みを進めていきたい。
3 学校生活では、友達を「～君」「～さん」をつけて呼ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 縦割り活動の中でも実践し、異学年での立場を考え、自己肯定感を高める。</li> <li>○ 月に1回児童の自己評価を行う。（6月・7月）</li> <li>○ 全児童の80%以上をめざす。</li> </ul>	○78%を達成することができた。 ○▲高学年のことばづかいに課題があることから、11月と12月は、一日に何回～君、～さんを付けて友だちの名前を呼んだのかを集計し、意識付けた。下半期前半に比べて、下半期後半は達成率が上がっている。 ▲引き続き友だちを大切にすよう、取り組みを進めていく。

自己評価

4点/4点満点

## 生徒指導部 美しい環境づくり

- 無言ですみずみそうじ
- 校内環境整備

具体的な方策（1 2 3）	成果（○）と来年度に向けた課題（▲）
1 だまって時間いっぱい掃除する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自己評価 全児童の80%以上</li> <li>○ 担当教員の自己評価70%以上</li> <li>○ 掃除評価表を作成し、意識づける。</li> <li>○ 縦割り班による掃除を6月から行っている。</li> <li>○ 一年生を上級生の教室で掃除に参加させる。（「わくわく・どきどき・はらはら」プロジェクト）</li> </ul>	○児童の自己評価 96%を達成 ○各そうじ場所の担当教員の見取りの評価 88%を達成 ○縦割り班で掃除を行うことで、上級生の姿を見て掃除を覚えている。 ○毎日の反省会で自分の掃除を振り返ったり、教師から肯定的に評価されたりすることで意欲を高めながら掃除に取り組むことができています。 ▲開始時刻は守られているが、掃除に集中しすぎて、座学に遅れそうになることがある。声かけや時計を意識させる。
2 くつ箱の整理整頓 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教室での自己評価 全児童の80%以上</li> <li>○ 担任の自己評価70%以上</li> <li>○ 学期に1～2回重点的に評価する。</li> </ul>	○児童の自己評価 88%を達成 ○担任の評価 81%を達成 ○毎日担任や係の児童が集計し、学級指導を行った成果が見られる。 ▲引き続き指導を継続し、整理整頓に努める。

自己評価

4点/4点満点

## 保健安全部 体力の向上

○3分間走の充実

○縦割りサーキットの充実

具体的な方策（123）	成果（○）と来年度に向けた課題（▲）
<p>1 運動タイム（3分間走）の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教師も一緒に走り声かけを行う。</li> <li>○ 強化週間を設ける。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期（5月12日～5月24日） <ul style="list-style-type: none"> <li>※6月2日（金）チャレンジタイム</li> </ul> </li> <li>・2学期（12月1日～12月8日） <ul style="list-style-type: none"> <li>※12月13日（水）チャレンジタイム</li> </ul> </li> <li>・3学期（2月19日～2月26日） <ul style="list-style-type: none"> <li>※2月28日（水）チャレンジタイム</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>○ 委員会の児童を中心に組みませる。</li> </ul> <p>2 授業でサーキット運動を行い、体力の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 握力・50m走に重点的に取り組む。</li> <li>○ 学年実態に合わせた用具を活用する。・ゴムボールで遊びながら握力向上</li> </ul> <p>3 外遊びの奨励</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 年に2回外遊び週間を設ける。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・2学期</li> <li>・3学期</li> </ul> </li> <li>○ 放送・ポスター等による呼びかけを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 強化週間を設け、計画的に実施できた。教師も時間には運動場に出て一緒に走り、児童の意欲を高めることができた。</li> <li>▲ 委員会児童への指導が十分でなく、時間通りに開始できない日があった。</li> <li>○ 縦割りサーキットで、ゴムボールにぎりや握力計による握力強化に取り組んだ。また、短距離の力をつけるために、折り返しリレーを取り入れ、遊びの中で走力をつける工夫をした。</li> <li>▲ 日常生活で握る、掴む、絞るなどの握力を鍛える場面を意図的に設定する必要がある。</li> <li>○ 体育整備委員会による児童朝会の縄跳び発表のあと、外に出て縄跳びをする児童が増えた。体育の学習に合わせた運動の紹介が良かったと思う。</li> <li>○ 2学期に実施した外遊び週間では、ほとんどの学年で外に出て遊ぶ姿が見られた。外に遊びに行くという習慣がついた。</li> <li>▲ 今後は、外遊び週間に学級遊びを設けるなど、さらに外遊びの児童が増えるような取組が必要である。</li> </ul>

自己評価

4点/4点満点

## 保健安全部 生活習慣をつくる

○早寝早起き朝ごはんリズムのよい生活習慣を身に付ける。（寝る時間を整える）

具体的な方策（123）	成果（○）と来年度に向けた課題（▲）
<p>1 早寝早起きカレンダーの取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学期に1回、期間を設ける。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期（5月15日～5月21日）</li> <li>・2学期（9月4日～9月10日）</li> <li>・3学期（1月22日～1月28日）</li> </ul> </li> <li>○ 期間中は毎日提出し、担任が確認する。</li> <li>○ 個別に指導が必要な場合は指導する。</li> </ul> <p>2 保護者連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 懇談で早寝の実態報告から就寝時刻を考えていただく。</li> <li>○ 学校からは就寝時刻の目安を提示（低学年：9時 高学年：10時）</li> <li>○ おたより等で啓発</li> </ul> <p>3 食の学習会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 栄養士との連携 ○ 参観日に食育授業</li> <li>○ 懇談が組めるなら懇談で話をして啓発</li> </ul>	<p>2学期の早寝早起きカレンダーの取組みの結果、学校全体で課題が残る結果であったため、就寝時刻を再検討し再度取組を行うことにした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 早寝の達成率が80%（86.4%）であった。</li> <li>○ 学年別のほけんだよりや指導、懇談会での保護者啓発が一定の効果を上げた。</li> <li>▲ 同一児童に課題が見られる。再度取組前に就寝時刻の見直しを行った。 <ul style="list-style-type: none"> <li>低学年 8：30～9：00</li> <li>中学年 9：30～10：00</li> <li>高学年 10：00～10：30</li> </ul> </li> <li>○ 就寝時刻の見直しを行ったことにより、児童の実態に合わせた取組となった。達成することが励みとなり早寝習慣習得への良いサイクルとなった。</li> <li>▲ 各家庭の都合や事情もあり学校で決めた就寝時刻に就寝できない児童もいる。そのような家庭や児童への指導が課題である。</li> <li>○ 担任と栄養士が協力して、参観日を中心に食育授業を実施している。来年度も継続していく。</li> </ul>

自己評価

3点/4点満点